

オープン市場短信 (2013年10月)

2013. 10. 08

◆ 9月のCP市場動向

9月のCP（短期社債）月末残高は、13兆3331億円と前月比1兆8131億円の大幅減少となり、6ヶ月連続で前年同月比マイナスを記録した。月末残としては、電子CP移行後の過去最低水準であった平成24年3月（13兆6228億円）を更新した。先月同様、全ての業態で残高が減少する動きとなり、一般事業法人▲31.06%、金融機関発行分▲0.53%、その他金融▲2.78%、ABC P▲12.76%という結果となった。

今月は中間期末であることから、企業の有利子負債圧縮目的で大幅減少が予想されていたが、それに加えてABC Pの減少が大きく影響した。

発行レートは、ディーラー中心に購入意欲旺盛で、日を追ってレート低下が進んだ。最上位銘柄では、2M物で0.08%台前半での出会い。一般事法でも、2M物で0.080%台半ばでの出会いが見受けられるなど、0.090%を割り込む出会いが散見された。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）発行確認出来ず。一般事業法人（a-1格）0.090%～0.105%
その他金融銘柄（a-1格）0.967%～0.120%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	9月末残高	8月末残高	増減
一般事法	31,793	46,116	▲ 14,323
その他金融	55,376	56,955	▲ 1,579
金融機関	30,656	30,819	▲ 163
（政府系金融	350	340	10 ）
（ 銀行等	14,447	13,619	828 ）
（ 証券	15,859	16,860	▲ 1,001 ）
ABC P	15,506	17,572	▲ 2,066
計	133,331	151,462	▲ 18,131

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

9月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0870% ~ 0.0960%	0.0830% ~ 0.0950%	—— ~ ——
a-1 (一般事法)	0.0840% ~ 0.1020%	0.0910% ~ 0.1090%	0.0900% ~ 0.1050%
a-1+(リース銘柄)	0.0860% ~ 0.0900%	0.0900% ~ ——	0.0965% ~ 0.1000%
a-1 (リース銘柄)	0.0938% ~ 0.0960%	0.0920% ~ 0.1050%	0.0967% ~ 0.1200%
a-2	0.0970% ~ ケ 0.25%	0.1050% ~ ケ 0.30%	0.1060% ~ ケ 0.35%

《CPオペ》

CP買入オペは、9月は3日・13日・20日と3回実行された。3日のオペでは、8月末発行分の持込が多かったためか応札玉が増加し、足切りレートが上昇した。13・20日のオペでは、発行レートの低下が影響し、足切り・平均落札レートは共に過去最低を記録した。 [9月末のオペ残高・・・1兆6,346億円]

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月3日	9月6日	4,000	7,700	3,862	0.095%	0.093%	40.7%
9月13日	9月19日	4,000	6,360	3,610	0.084%	0.092%	61.1%
9月20日	9月26日	4,000	6,480	2,760	0.079%	0.087%	83.9%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆5506億円（前月比▲2066億円）に止まり、過去最低水準となっている。足元の大幅な資金余剰の影響もあって、その組成ニーズが大きく後退している。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は新規登録・登録抹消共に無く、491社と変わらず。9月末時点における通算の発行企業数も変わらず、527社。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、9月中も落ち着いて推移しつつ、発行レートやレポレートの低下に伴い、徐々に弱含み(0.090%~0.100%近辺)となった。

◆ 10月のCP市場動向

10月中のCP償還額は約2兆4200億円で、前年同月の償還額(約2兆7000億円)を下回っている(除く、金融機関発行CP・ABCP)。

一般事法は復活発行が行われるため、前月より大幅増加が見込まれる。他業種については、資金需要が強くない事もあって横這いから若干減少を予想する。

発行レートは、引き続き運用ニーズが強いことから、弱含み地合いを予想。現在、0.090%を割り込む発行が散見されている。ディーラーの中には、引き続きその水準においても積極的に購入する向きがあるが、投資家の中ではCP運用を既に行わない動きも生じている。投資家層の偏りが、異次元緩和の中で顕在化し始めていると指摘されている。

一般銘柄の3M物では、0.080%台前半～0.095%近辺の出合い。その他金融・リース銘柄(a-1格銘柄)の3M物は、0.080%台後半～0.105%近辺での出合いをそれぞれ予想する。

3日に、日銀短観「CPの発行環境（発行企業ベース）」の公表があった。それによると、DI（“楽である” - “厳しい”）が前回調査より、大企業の製造業でプラス3%ポイント、非製造業ではプラス6%ポイントと改善した。前回調査と比べ、「厳しい」と答えた企業に変化は無かったが、「さほど厳しくない」から「楽である」と答えた企業の割合が多くなっている。CPの発行レート低下や資金需要の強さを、より多くの企業で認識していることの現れではないか。

《CPオペ》

今月は、3日（実施済）・18日・28日と計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定。3日のオペ結果は、8/20オファーのオペ以来久しぶりに8000億円台の応札が集まったものの、足切りレート・平均落札レート共に過去最低水準を更新した。次回以降についても、発行レートの低下を勘案すると、弱含み地合い継続と思われる。月末オペ残高は、2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは0.05%～0.08%近辺の出合いで月中推移すると思われ、インターバンクレートは、0.065%～0.075%近辺での推移が予想される。

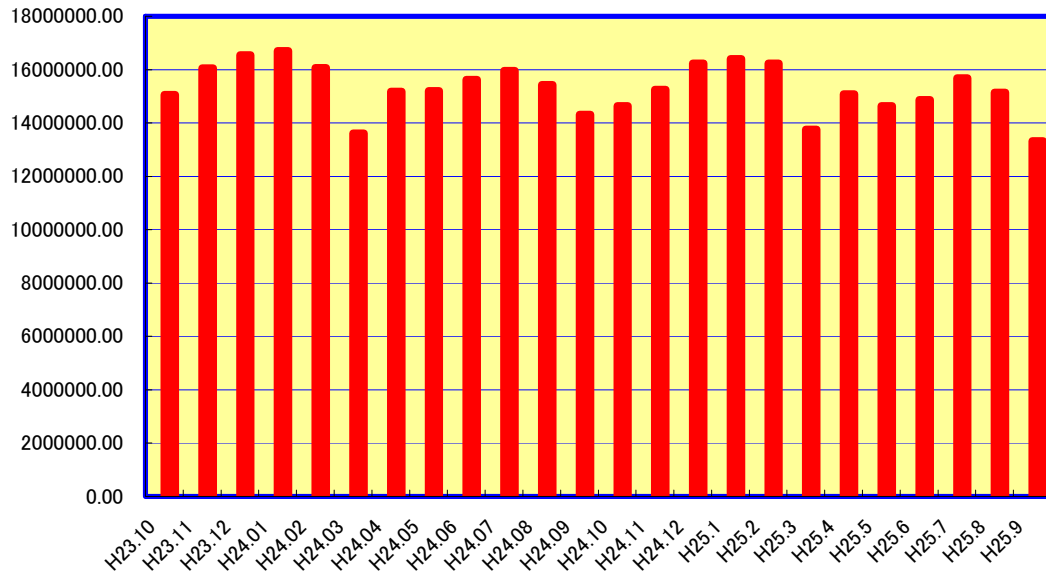
CP現先レートはレート低下が進み、0.080%前後～0.090%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（23年10月～25年9月）

発行登録企業：491社（発行実績あり527社）

（過去2年間の残高を表示）



9 月末発行残高ベスト 20

9月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三菱UFJリース	762,600	750,800
2	三井住友ファイナンス&リース	751,600	755,300
3	東京センチュリーリース	606,200	606,000
4	三井住友信託銀行	562,000	480,000
5	三菱UFJモルガンスタンレー証券	506,500	478,600
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	444,000	461,000
8	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	392,200	603,760
9	JA三井リース	323,000	330,000
9	興銀リース	323,000	329,400
11	みずほ証券	312,400	330,800
12	アルカディア・ファンディング	293,590	295,230
13	日本証券金融	287,000	179,000
14	大和証券	268,480	360,380
15	芙蓉総合リース	239,700	237,700
16	野村証券	232,500	254,000
17	フォレスト・コーポレーション	228,022	161,577
18	エイペックス・ファンディング	204,530	295,570
19	ホンダファイナンス	196,000	200,000
20	SMBC日興証券	165,800	147,800

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会